

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100825		
法人名	株式会社 上毛福祉会		
事業所名	グループホーム さちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	令和 6年 8月 23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和6年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「介護する人される人 誰もがみんな家族です」「地域との輪 ふれあいの輪 心のケアを大切に」を掲げ、家庭的な雰囲気を感じ、居心地の良い場と思って頂けるよう、努力しています。理念にある心のケアを重点に置き、大きな疾患をもたれている方々の心の支えになれるよう、寄り添っていききたいと思います。

環境面で、建物は平屋の木造で木の温もりを感じられ、大きな窓からの中庭の景色は季節を感じられる造りとなっており、花壇・家庭菜園・外庭の桜の木等、緑豊かで のどかな環境は職員も精神的に落ち着きを与えられると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に作成した「介護する人される人 誰もが みんな家族です」の理念の基、ルールにしばることなく家族同然に自宅で過ごすように、利用者ファーストで関わっている。職員は無理強いすることをせず、利用者一人ひとりのペースを大事にする精神を心掛けており、この理念の思いが食事や排泄・入浴介助または終末期の関わり等、すべての支援の根底に流れている。また、食事では地域の野菜の差し入れも活用して、食材を無駄にしないよう献立を考え、季節感や行事食を取り入れながら職員が交代で調理しており、事業所の努力が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念「家族」「心のケア」をテーマに寄り添うケアに努めている。玄関・事務所に掲げており、職員会議等で確認している。	理念は「家族、心のケア」をテーマとし、家族のように名前呼び合い、自由に関わることを信条にしている。そして、つらい時も嬉しい時も、利用者の心に寄り添うことを大切にしている。職員会議で日々の関わり方を振り返り、理念の意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、農作物を定期的に頂き、ホームからは納涼祭の協力費等をし、地域との交流を図っている。	地域から定期的に農作物の差し入れがあり、事業所も納涼祭の協力費を納める形で交流がある。コロナ禍前は町内の「ふれあいサロン」に出向く事もあったが、現在は利用者も高齢のため体力面でも地域に出る機会が減少している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、発信できる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの状況報告等行ない、情報発信し、ご意見伺う。	2ヶ月に1度、家族代表、自治会長、市職員、管理者のメンバーで開催している。農作物の調理方法や空床が出た時の相談等、話しやすい雰囲気の中でアドバイスももらい、業務に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、行政の立場からのご意見伺う	役所には、マイナンバーカードについて・空床がある時の相談・介護保険の更新や変更の手続き等で窓口を活用しているが、日頃の関わりは少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、会議で確認し玄関の施錠は夜間のみ、門の施錠は昼夜問わず行っていない。	利用者の安全を確保した拘束をしないケアの実現を常に考えている。ケアに当たる際の注意点を職員に指導しており、身体拘束適正化委員会で日頃のケアの確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務日誌で身体のおぼえ等の確認があり、不適切ケアについて、職員間で共有認識がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方がいらっしゃるが、制度を学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に関し、ご家族に説明・納得して頂き、改定の際は、口頭・書面でお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の方のご意見は日常の中での会話で伺う機会があるが理解できる方が少ない ご家族には気軽に話せる機会を設けている	家族には、利用者の状況や事業所行事等を掲載している「さちね便り」を渡し、家族も利用料払いで月1回は来訪の機会がある。そうした機会に運営に関する意見はあまりないが、時には食事の量についての意見をうけ、持病を意識しつつ食事量が多く見える工夫をして、業務に反映させている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等、会議や個別でも話せる機会を、設けている。	月1回開催の職員会議では、話しやすい雰囲気作りの中で、利用者個々の状態についての振り返りや、運営面での意見交換をしている。休憩室のエアコンの交換や利用者の状態により勤務シフトを変更するなど、柔軟に意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により、職員に関する事や環境等を把握し、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できる機会が、現在ない状況である。 今後参加できる機会を設けていければと思います		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流の場がない状況ではあるが、今後質の向上につなげられる機会を設けられればと思います。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご要望等伺い、伝えられない方には状態確認しながら寄り添い、安心してサービスを受けて頂けるよう、信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に話せる様な関係作りに努め、メール等でも気軽に相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に必要な支援をご相談の上、できるだけその思いにお応えできるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもあるご利用の方のアドバイスを頂き、生活の中で活かし、支え合って暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でも、大切な家族との面会には、必要に応じ行ってきており、皆で支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策して頂き、ご相談があれば短時間でも、心が和む時間が作れるよう努めている。	馴染みは家族・自宅と捉え、職員では補え切れない絆が家族にはあるとし、コロナ禍でも対策を講じて、面会制限をせず実施し関係継続の支援に繋げた。行きつけの美容室等の利用や、外出も兼ね家族と外食に行く機会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で気の合う方、合わない方の関係を把握し、職員が共有し支え合えるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は長年入居されていた方のご家族との関係性は続いていましたが、徐々に薄れてきている。必要に応じ連絡できる体制はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理解困難な方等には、日常生活の中で答えが見つけれられるよう、職員間で話し合い、居心地の良い場となれるよう、努力している。	発語困難な利用者が半数おり、日々表情を観察し思いの把握に努めている。家事手伝いをしたい、家に帰りたい等の願望があり、穏やかに生活を送るためにこれらの思いに寄り添いながら、言葉を選んで関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様にお話を伺い、日々の暮らしの中でも把握に努め、多くの情報が得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りや会議等、職員間で把握し望まれる生活となるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態確認しながら、ご家族のご意向伺い、職員間で課題等話し合い、計画の見直しに繋げている。	ケアマネージャーである管理者が家族の希望を取り入れながら、介護計画を作成している。利用者の状況は、月1度の職員会議で話し合いながら評価している。	サービス内容を具体的表現で立案し、介護計画と日々の記録が繋がるような記録の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等を、個別に記録し、職員間で共有し把握しながらケアを行ない、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科・歯科・訪問サービスの散髪、マッサージとその方の状態、ご要望に応じ取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響からは、ボランティアの方との交流が現在機会が無い状況になってしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の協力して頂いている主治医に、いつでも相談できる体制が整っている。	かかりつけ医は自由に決めていただいているが、全員が事業所の協力医の訪問診療を月2回受けている。夜間等の急病に対しては、医師に相談できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職の配置はないが、契約しているクリニックの訪問看護師に、相談できる体制は、整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は面会・電話で状態確認に努め早期退院可能であれば、1日でも早く退院の運びとなるよう相談させて頂く。ホームの主治医にも相談させて頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、入居の際に説明させて頂き、その都度その方の状態に応じ主治医・ご家族・ホーム側とで話し合いをし、意向を確認しながら対応している。	看取りは10件以上実施しており、管理者は、職員が不安もある中ではあるが、介護職としての自覚を持たせながら、ともに対応している。重度化になった際には、主治医・家族・職員で相談し、その時の家族の意向を大事に、その利用者にとって良い状況を選んで、皆で対応にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを掲示し、利用者個々の緊急時に備え会議等で対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を職員・ご利用者の方と行なっている。緊急時に地域の方の協力体制がある。	年2回、主に火災を想定した避難、誘導訓練を、職員と利用者で実施している。今後は、川が近くにあり洪水を想定した計画を予定している。消防署や保育園が近くにあり、地域住民2名の協力員の決め事はあるが、訓練の参加は募っていない。	地域住民2名と体制をとっているが、具体的な行動役割までは決まっていないので、広く協力が得られる内容や、職員の具体的行動指針等、細部に渡るマニュアル作成の検討を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった、お声掛けをし排泄や入浴介助等職員間で共有し、ケアを行っている。	不適切ケアをしないよう、常に話し合いを重ねている。大きな声でトイレ誘導をしない、その利用者に通じるわかりやすい言葉(トイレ・おしっこ)を選んで話しかける、職員の男性・女性を気にする方には同性介助で対応するなど、利用者の尊厳を守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で伝えられない方、理解困難な方は表情等で見極め、その時の状態に応じ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にしながら、マイペースでその方らしい暮らしができるよう、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に応じ訪問サービスの散髪、伝えられない方にはホームで必要に応じ散髪し、身だしなみは大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等取り入れ、ホットプレートでの作業のお手伝いや季節に応じた楽しみ方、好みの食事を伺い取り入れるよう心がけている。	利用者にとって一番の楽しみは食事であるが、食べたいものの言葉の想起が困難なので、雑誌の写真等を見せながら好みのものを提供している。3食の調理は、職員が交替で作っている。行事食やおやつ作りには利用者も参加し、食への楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表で確認しながら、情報共有し支援している。 個々の嚥下の状態、好み等に応じ無理なく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアを行ない状態確認している。必要に応じ歯科医に相談できる体制がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握、職員間で共有し、その方に合ったトイレ誘導、声かけを行っている。	おむつ使用者が2名の他は、リハビリパンツや下着の方で、プライバシーを配慮しトイレ誘導している。朝は排便のチャンスと捉え、清潔ケアも含めて、全員を必ずトイレで排泄としている。介護度5の利用者も2名いるが、2人介助でトイレ排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で、排泄間隔の日数や便の状態確認しながら、その方にあった対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態に応じ、対応している。週末は面会等もあり基本はお休みだが必要に応じ、入浴できる体制はある。向き合える時間となる為大事にしている。	利用者の希望や状況により柔軟に予定を変更し、支援している。入浴中は話を聞けるチャンスと捉え、いろいろと話かけをしている。入浴拒否の利用者には、仲のよい利用者の入浴の感想を聞いてもらい、入浴に繋げる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、静養して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で、個別の薬の確認ができ、チェック表で誤薬の防止、居宅管理サービスで管理薬剤師の方に相談できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人には、日々の会話の中から、ご家族からは以前の楽しみ事等の情報を得て、日々の支援に生かせるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の方の機能低下、コロナの影響もあり、外出支援の取り組みが、できない状況であるが、ご家族のご協力で外食される事もある。ホーム庭での外気浴で、気分転換を図る。	外出は「外の空気が吸えること」と捉え、広い庭の散歩やデッキに出て、どの利用者にも外気浴を促している。洗濯物を干したり、取り込みができる利用者は、自由に中庭に出て行動しており、日常的な外出に繋がっている。家族との外出も自由であり、外食に出ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、立て替えの支援できる体制がある。お金の所持については、現在は行っておらず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、ご家族等連絡可能である。機能低下でやり取りの難しい方はホームでのご様子を動画や、写メで送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場となるよう心がけ、食堂の席は状態に合わせ、気の合う方と一緒になるよう配慮し、玄関に季節の人形や花等飾り、季節感を取り入れている。	居心地の良さは、空間や人間関係が大事と捉えている。共用空間は対面式のキッチンもあり、職員の顔や調理の音、匂い等、生活感を感じられる。玄関に季節感のある飾り物を置き、回廊廊下には所々ベンチが作られ自由に休める工夫があり、また席の配置による人間関係への配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、和室等で気の合う方との居場所の確保はできている。 お一人になれる空間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、布団や家具写真等を持ってきて頂き、安心して暮らせるよう、配慮している。	「その人らしい部屋」とは、安心して過ごせることと捉え、自宅にいるような雰囲気作りを心掛けている。写真、馴染みの家具、テレビ、座椅子等を持ち込み、見慣れたものが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・居室等に手すりの位置があり、歩行の安全確保をし、トイレの目印があり場所の確認ができる。現状では自立困難な方が多くなっている。センサーも活用し安全面を考慮している。		